

第20回勉強会報告

研修部

日時：2005年6月22日（水）13：00～16：00

場所：住友病院 第3会議室

プログラム：

1. ILL 基礎講座

大阪府立母子保健総合医療センター

中村雅子氏

2. 病院図書館運営

京都南病院 山室真知子氏

3. 協議会での協力活動

社会保険神戸中央病院 林 伴子氏

参加者数：会員12名、賛助会員2名

今年度最初の研修活動となる第20回勉強会では、以上の3講座を3名の講師が担当しました。事前に講義内容について打ち合わせをしなかったため、3名の話の流れに一貫性がなかったことは否めません。

〈ILL 基礎講座〉

例題に沿った演習や受講者による「ILL 書式」の作成・添削もまじえて、以下の内容について話していただきました。

- 「文献取り寄せ業務」の基本的なルール
- 取り寄せを依頼された文献リストの Verify (=書誌事項の確認作業)
- 論文などの参考文献リストから雑誌論文なのか単行書中の論文なのかを見分ける方法
- 文献データベースで突き止めた正しい雑誌名から所蔵館を調査する方法
- 相手館選択をする際の基準
- Verify 後の書誌事項を基に「ILL 書式」を作

成する方法

- ILL 料金の相殺を目的とした郵便振替口座開設の薦め
- 切手・現金での支払いを受け取ったあとの通知書の返送方法

病院図書館の仕事に就いたばかりの新任者には、面食らう内容を盛り込み過ぎた感もありましたが、当日の参加者中『相互利用マニュアル第四版1996年』（日本医学図書館協会：JMLA 発行）を手元を持っていると回答した人が、たったの1名という状況下では、おのずとあれもこれも伝えなくては、と勢い込んだ次第です。

「文献取り寄せ業務」は、外部に依頼するという一方向だけではなく、「文献のやりとり業務」すなわち「図書館間相互貸借業務 (=ILL)」であり、これは病院図書館の根幹機能でもあります。「病院図書館からの依頼は謝絶」との方針を持つ大学図書館が増えてきている昨今、ILL のルールやマナーを身に付けずにとんでもない申し込み方をして、まだ「受付可」としている大学図書館からの信用をこれ以上喪失するようなことや、また、相手館を困らせるようなことは決してしてほしくないと思います。「近畿病院図書室協議会の会員からの依頼は安心」との評価が相手館から得られるよう、担当者一人ひとりの熱意と努力とに期待します。

『相互利用マニュアル』の改版が近々発行されます。JMLA 事務局によると、「JMLA ホームページに案内を掲載する予定なので確認してください。」とのことでした。JMLA の ILL マニュアルは、日本国内の ILL 環境を永く牽引してきた伝統あるルールブックでありガイドラ

インです。小さなネットワークだけではとかくアレンジしがちな ILL のスタイルを適切に是正してもらえenと思いますので、ILL 担当者は、必ず入手しておいてください。

「ILL」といえば、Nacsis-ILL システムや Nacsis-ILL 料金相殺システムを想起してしまうご時勢ですが、Nacsis 以外の図書館連繋のあり方もまだまだ必要です。そこにこそ当協議会の存在意義があるのではないのでしょうか。

参加者の皆さん、長時間の演習、本当にお疲れさまでした。

〈病院図書館運営〉

「役立つ担当者と思われるコツとは？」と題して、話していただきました。

一つめのポイントは、利用者への対応です。病院図書館へはさまざまな情報を求めて利用者がやって来ます。そのため医学関係以外のレファレンスにも対応することがあります。即答できないことがあっても猶予をもらって調べるなど、利用者の視点に合わせたサービスを心がけることが大切です。また、「否定の言葉を使わない」ということ、禁止の代わりに可能なことを紹介・案内し、利用者へ拒絶されたという印象を与えないようにすることも大切です。利用者の使いやすさよりも担当者の管理のしやすさを求めがちな状況に陥っていないかを省みる良い材料となります。

二つめのポイントは、担当者の自己研鑽です。医学系の書籍では書名ひとつをとっても独自の使い方があります。担当者が不慣れでは利用者への十分なサービスは行えません。研修会や勉強会への参加には時間と費用の投資が必要ですが、その費用を惜しまないことで得るものは大きいと思われます。また、受け身な研修にとどまらず、主体的に研究を行い、文章化し、発表することが自分自身の糧となるだけでなく、病院内での図書館員の存在を意識させるひとつの方法となるでしょう。

〈協議会での協力活動〉

当協議会の事業活動は、相互協力活動を基盤としています。そのためには研修会への参加や資料の提出など、会員の責務がいくつかあります。会員の皆さまには、部活動などへの積極的な参加をお願いいたします。

本会の終了後、参加者の自己紹介を兼ね、交流の場を持ちました。初めての参加者が多く、図書室の現状もさまざまで、図書館活動についての認識の違いもありましたが、今回の経験を生かしていきたいとの声を多く聞くことができました。

(文責：中村雅子／大阪府立母子保健総合医療センター、林 伴子／社会保険神戸中央病院)